



syounankai

香南会報

第54号 2017

現在の幸町北キャンパスの写真です。さて、どこでしょう。答えは裏表紙をご覧ください。



社会にはたらきかける松楠会に

ここ最近、国内はもとより、海外においても「自分さえ」「自国さえ」と主張する風潮があります。もとより「自分」「自国」が、最も大事なことは言うまでもありません。しかし、他も大事にしなければ、健全な社会は成り立たないのではないかと思います。「互いが互いを尊重し合い、協力し合う」ことが、安心で住みやすい社会になるのではないのでしょうか。

さて、29年度の松楠会の事業も、社会貢献のための事業の一層の推進を図っていきたくて考えています。会員相互の親睦を図っていくことは勿論のことですが、それだけではなく、社会のためにという姿勢を大切にしたいと考えています。

学 部 長 挨 拶

地域創生時代の教育の発展に貢献します。

香川大学教育学部長・教育学研究科長 毛利 猛

松楠会会員の皆さまには、日頃より母校へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。平成29年度を迎えて、学部・研究科の現状と今後について報告させていただきます。

まず、教育学研究科においては、平成28年度4月に高度教職実践専攻(教職大学院)を開設しました。地元の香川県教育委員会からの強い要望に応え導入した、現職教員を対象とする1年間の短期履修学生制度により、初年度は、香川県教育委員会から11名、岡山県教育委員会から1名の計12名、開設2年目の平成29年度は、香川県教育委員会から10名、岡山県教育委員会から2名の計12名の現職教員学生が入学しました。第I期生の現職教員学生12名は、この3月に開催された教職実践研究フォーラムで、充実した学修の成果を発表しました。

教育学部においては、平成27年度から学校教員養成課程160名、人間発達環境課程40名を定員とする新しい体制に変わりました。初等教員養成を強化するために拡充

その事業例の一つが、子どもたちの様々な活動を支援する「松楠会支援事業」です。自然現象の不思議さを追求する面白さを体験する活動や、実際のロケット作りをとおして原理を学ぶ活動等に支援してまいります。その他、大学生を支援する「学生支援事業」、子どもたちへの指導力を高めようと若い先生方が仲間たちと語り合うことを支援する「若年会員活性化事業」等が挙げられます。

来る平成31年度には、松楠会創立130周年を迎えます。その記念事業の実施について、今から計画を立てて参りますが、120周年の成果を踏まえつつ、社会に役立つ事業も大切にできればと思っています。



会長 小比賀 俊彦



香川大学教育学部長・教育学研究科長 毛利 猛

された小学校教育コースには、生活・総合領域という新しい学生研究室が立ち上がり、3年生8名、2年生10名が所属しています。

また、教育学部では、小学校英語教科化に向けた取り組みとして、小学校現職教員が中学校2種免許(英語)を取得できるようにする免許法認定講座を平成28年度から平成30年度までの3ヵ年計画で実施しています。さらに、教育学部における高大連携の取り組みとして、平成29年度に開設された坂出高校「教育創造コース」の教育プログラムに協力します。

香川大学教育学部と大学院教育学研究科は、これからも質の高い教育人材の育成と教職の高度化、そして地域と学校の課題解決に応える教育研究を通じて、地域創生時代の教育の発展に貢献します。松楠会会員の皆さまには、どうか今後とも母校を応援していただきますようお願い申し上げます。

母校教員の異動

併 任

平成29年 若井 健司 附属坂出小学校長・幼稚園長
3月31日 (併任解除)
平成29年 小西 憲一 附属坂出小学校長・幼稚園長
4月1日
北林 雅洋 附属高松小学校長(継続)
恵羅 修吉 附属特別支援学校長(継続)

昇 任

平成29年 教授 植田 和也
4月1日

退 職

平成29年 退職(定年) 秋山 智
3月31日
退職(定年) 加藤みゆき H29.4.1付け名誉教授
退職(定年) 長谷川順一 H29.4.1付け名誉教授
退職 高木 愛 交流人事教員
香川県教育センター主任指導主事へ
退職 長谷 綾子
退職 富永 大悟

採 用

平成29年 教授 林 智一 大分大学医学部准教授より
4月1日 准教授 松島 充 広島大学附属東雲小学校教諭より
准教授 吉川 暢子 筑紫女学園大学人間科学部講師より
准教授 十河 妹 交流人事教員 さぬき市教育委員会主任指導主事より
特命教授 谷川 博史
特命准教授 村上 祥子 山陽学園短期大学食物栄養学科准教授より

(了解を得られた方の前職を記載しております。)

称号付与

平成29年 附属教職支援開発センター客員教授(継続) 岡 静子
4月1日 附属教職支援開発センター客員教授(継続) 大山 修
附属教職支援開発センター客員教授(新規) 東条 直樹

訃 報

細川 勝信 (前坂出支部長) 平成29年4月11日 ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

退職のご挨拶

秋山 智



本年3月31日をもって、定年退職いたしました。永年にわたり、教員、職員、ならびに松楠会の皆様にはご助力ご支援を賜り、そのおかげをもちまして何とか定年まで至ることができました。皆様には深く感謝いたします。

私は昭和57年(1982年)10月に本学部美術学科デザイン担当として赴任いたしました。足かけ35年皆様にお世話になったこととなります。赴任したことがつい先日のように思えますが、いろいろな出来事、専門分野の様変わりなど考えますと、月日の流れを感じざるをえません。

学部におきましても、赴任時から大学院設置、新課程設置、一般教育から教養教育への変化、さらに何度かの課程申請などを経験いたしました。当初、美術の学生定員が15名でしたし、教員定員も百名以上でした。今日では学部の規模等も変化いたしました。当初の学生の皆様も星霜を重ねられましたが、いまだにお訪ねいただいたりして当時の話をさせていただけるのはうれしい限りでございます。

松楠会では、会のシンボルマークや創立百周年記念品を作成させていただきました。当時、障害児教育の脇屋潤一先生が記念事業に奔走なさっていただき、私にもご依頼をいただきました。私の作成したものを脇屋先生によるこんでいただけたことなどを懐かしく思い出します。

退職後は、興味、関心の対象を、建築、住宅にも広げ、建設会社、工務店や卒業生など中心に自由な立場で地元に貢献したいと思っております。今後も変わらずにお声をおかけ下さい。

最後になりましたが、松楠会のご発展と会員の皆様のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。

退職のご挨拶

— 香川大学での28年間

加藤 みゆき



本年3月で香川大学教育学部を退職しました。平成元年の採用から28年間勤務させていただきました。退職にあたって最初に思ったことは、65歳まで無事に健康で過ごせたことでした。というのも研究者として素晴らしい方々を途中で亡くしたことです。

香川大学教育学部に来た頃は、さぬき弁に慣れてなくて「たべまい」「しまい」等、全くわかりませんでした。多分、皆さんの話すスピードが速く、聞き取れなかったということもあると思いました。当時は、さぬき弁や岡山弁を使っている学生が多く、一言一言わからない言葉を学生にそのつど教えてもらいました。今では笑い話ですが。

当時、家政研といって1年生から4年生まで多くの学生が所属していました。ゼミ活動も活発に行われており、授業でできない「味噌作り」なども4年生指導の下1年間かけて製造していました。大学祭の頃は「家政研弁当」「小物づくり」「クッキー」「パウンドケーキ」等多くの展示品を作成していました。ほぼ2ヶ月かけて製作していたと思います。「小物づくり」で作ったものは、「売約済」にするため定価で購入させられました。売れないものは値引きして売っていました。

私の研究室は、卒論はほとんどが実験で、1年に1回、夏休みに静岡で紅茶製造実習をしていました。朝早くから牧の原台地の国立茶業試験場まで出かけてゆき、1泊または2泊の研修でした。その目的は、他大学との研究交流と茶業試験場の研究員との交流でした。もちろん自分たちの

実験試料を製造することが一番でした。当時新幹線の乗り方や在来線の乗り換えについて教えたことなど、今では考えられないこともありました。

現在は小学校の教員としての就職が多くなっています。以前は高校の教員になるか、県の職員になる人が多く、家政の専門に関して十分習得してないと就職できない状況でした。現在は、小学校なら何とかなるといって卒業生を送り出しています。そのため、家政の基礎・基本が充分ではない人が多く、卒業後が一番の気がかりです。是非開講科目の家政の選択をすべて履修するくらいの気構えを持ってほしいものです。

最後に松楠会の皆様のご活躍を祈りつつ、退職の挨拶に代えさせていただきます。本当にありがとうございました。

退職のご挨拶

長谷川 順一



ご縁があって本学部に参加して、いつの間にか30年余が経過し、この3月末をもって定年退職いたしました。私は、本学部では主として算数教育・数学教育に関わる授業科目を担当してきました。算数・数学というと「嫌い」という児童・生徒が少なからずみられます。一方、小学校の先生、中学校数学の先生になろうとする学生は、「算数、数学はおもしろい」と感じ思っていることが重要です。このことを念頭において学部での授業を行ってきたのですが、授業受講生の皆さんは、どうだったでしょうか。「嫌い」のまま卒業した方には、眼前にいる児童・生徒のために「算数・数学好き」になるべく日々努めてくださるよう、願うばかりです。

在職期間中には、皆様方には大変お世話になりましたことに、心より感謝いたします。また、本学部の益々のご発展、皆様方の益々のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、退職のご挨拶といたします。

松楠会の歴史のなかで

高木 愛



交流人事教員として、22年ぶりに母校である香川大学に戻ってきてあつという間の3年間。たくさんの素晴らしい先生方、職員の方々と共に仕事をすることで、母校がいかに教員を目指す学生にとって素晴らしい環境であるか、再確認することができました。教員人生において、特に貴重な時間を過ごすことができたことを感謝いたします。

思い起こせば、私が教員となった25年ほど前は、まだ学校現場にも穏やかな時間が随所に残っていたものですが、昨今は教員の長時間労働などの問題もニュースになっており、「教師は大変な仕事だ」と言われるようになってきました。それでも、母校の学生たちは、未来の子どもたちのためにより良い教師となることを目指し、一生懸命学んでいます。松楠会の長い歴史の中で、諸先輩方から脈々と受け継がれてきた道をつなぐ一助になればと、学生へのかかわりの中で教師のやりがいや素晴らしさを伝え、微力ながら指導を行ってきました。春になるたびに、多くの学生が、教師としての一歩を進み始めた姿を見ることができ、我がことのように嬉しく頼もしく感じております。

私事ですが、このたびの人事異動で、香川県教育センター教職員研修課勤務となりました。今後は、松楠会の一会員として、母校の後輩たち、また香川県の若手教員を支え育てられるよう努めてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

教職実践研究交流会・公開講演会

平成28年8月6日(土)にオーリーブ・スクエアで「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携を基盤に」をテーマに、教職実践研究交流会・公開講演会を開催しました。(教職大学院、附属教職支援開発センター、松楠会、県教育センターとの共催)総勢119名の参加を得て大好評でした。授業づくり、道德教育、特別支援教育に関する3つのワークショップ後に、元高知大学の田邊重任先生より「豊かな心を育む学校づくり」と題して講演が行われました。学校教育、道德教育での幅広いご経験から、大変広い視点と深い洞察力で整理し、講演していただきました。



平成29年度は、附属教職支援開発センター・県教育センターとの共催で公開講演会を、平成29年8月26日(土)午後に英語教育に関する内容で予定しています。小学校英語の教科化等を踏まえて求められることやこれからのポイントについて考えていきたいと思えます。さらに、平成29年9月30日(土)午後には、道德教育に関する内容での公開講演会を教職大学院・県教育センターとの共催で予定しています。詳細は、後日、松楠会や附属教職支援開発センターのHPに掲載しますのでご確認ください。

香川大学教職大学院での学びを発表します!

今年度も、香川県・岡山県の教育委員会から派遣された現職教員学生と学部卒学生、M2をあわせた16名により、2年目がスタートしました。教職大学院では、教育実践現場をフィールドとして、実践的研究による理論と実践の往還をとおして、教員集団と学校全体を質の高い組織として高めていくことに貢献できる教員を養成しています。

香川大学教職大学院では、教職経験5年以上で県教育委員会の推薦を受け、所定のプログラムを行う短期履修学生制度を活用した現職教員は1年間で修了することができます。今年3月に修了した1期生は、現在、学校のミドルリーダーとして活躍しています。

教職大学院での学びをどのように学校現場に還元し実践しているかを、平成29年8月5日「教職実践研究交流会」、12月27日「香川の教育づくり発表会」において1期生が発表いたします。また、平成30年3月4日「教職実践研究フォーラム」において、大学院生が実践研究の成果を発表いたしますので、ぜひご参加ください。



授業の様子



3月の教職実践研究フォーラム



松楠会創立130周年記念誌

香川大学教育学部で過ごした思い出の写真を募集します!

平成31年度に迎える松楠会創立130周年に向けて、松楠会では記念誌を作成することになりました。記念誌には、香川大学教育学部の現在に至るまでの風景を映した写真を掲載したいと考えています。そこで、同窓生の皆様から香川大学教育学部で過ごした思い出の写真を募集します。在学当時の香川大学の建物、研究室の仲間や恩師との思い出の一枚など、どのような写真でも結構です。松楠会創立130周年の節目に、皆様の思い出が蘇り、当時の懐かしさとともに装い新たな香川大学教育学部を実感していただけるような記念誌を作りたいと思っておりますので、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。



写真は、画像ファイルをメール添付でお送りいただくか、現物あるいはその複写を郵送にてお送りください。なお、お送りいただく写真の個人情報に関する内容は、事前に関係者にご了解を得ていただきますようお願いいたします。また、ご提供いただいた写真は同窓会館にて保存させていただきます。写真の返送はいたしかねますのでご了承ください。

送付先 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス: syounan@ed.kagawa-u.ac.jp TEL: 087-832-1414

*お名前と卒業年、分かれば撮影した年や日付(○月頃でも可)を明記してください。

若年会員活性化事業

三豊・観音寺支部 観音寺市立観音寺小学校 堀 友博

三豊・観音寺支部では若年の先生方が増える中で、松楠会の若年会員活性化事業を活用して、小学校国語の授業及び教材研究について学ぶ「国語授業作り基礎・基本の会」を行っています。平成28年度も香川大学出身の元観音寺市立豊浜小学校長 中須純子先生を講師としてお迎えし、年間8回開催しました。午後7時からの開催ですが、若い先生からベテランの先生まで、50名ほどの先生方が参加されており、教材研究を踏まえた具体的な授業の立て方や発問の仕方を熱心に学び、日々の国語の授業作りにすぐに生かせる内容となっています。私も教材解釈を生かした国語の授業作りを考える良い機会となっており、会の開催を心待ちにしています。これからも若年の交流の場ともなる活性化事業を活用していきたいと思っています。



綾歌支部 国分寺北部小学校 小川 翔子

平成28年度に本校は若年会員活性化事業をお受けし、香川大学教育学部を卒業した教職5年以下の教員を中心に11名で様々な活動に取り組んで来ました。

本校の若年研修は、例年「授業研究と教材研究」「学級経営力の向上」「体験的・親睦的な活動」を中心に行っています。

授業研究では、若年指導や教科主任等の先生方の指導を受けながら、指導案検討や模擬授業を行ったり、初任者対象の示範授業を共に参観させていただいたりしました。様々な意見を出し合ったり、授業を参観したりすることで、指導方法の視野が広がり、自分の指導に生かすことができました。

また、定期的に反省会や親睦会などを行って、意見を交換する場を設けることで、メンバーが抱えている悩みや問題を共有し、共に成長することにつながっています。

このような活動を通じて、大変意義のある研修ができ、メンバー相互の繋がりが深まりました。他校へ異動となったメンバーとも年に1回は声をかけ合って集まるなど、若年研修での繋がりが続いています。教職5年以下ということで、毎年メンバーの入れ替わりはありますが、一年一年の経験を着実に積み上げていき、共に伸びていきたいと考えます。



教職自主サークル

毎週月曜日の夜、「教職自主サークル」と呼ばれる学生の自主的な活動が行われています。この活動には教員を志望するたくさんの学生が参加しており、現在、約90名の学生が登録しています。世話役の5名の学生を中心にみんなで力を合わせて取り組み、学生同士で研鑽する場となっています。主な活動内容は、集団討論や模擬授業の演習や各自自治体の教員採用選考試験に関する情報・意見交換などです。回数を重ねる度に集団の力が高まり、それが個々の伸びにつながっていることが感じられます。

平成26年度からは、「教職に就いている卒業生と在校生との交流会」を夏と冬の年間2回実施しています。県内外の小学校・中学校に勤務している卒業生から教員生活についての話を聞いたり、授業についてのアドバイスをもらったりしています。自分たちと年齢の近い先輩との交流を通してよい人間関係が生まれるとともに、教育に対する視野を広げる貴重な機会となっています。

今後も、卒業生に「教職自主サークル」に参加してもらうことで、一人一人がつながりを感じられるようにしていきたいと考えています。



模擬授業の様子

松楠会支援事業

平成28年度松楠会支援事業の活動報告は、松楠会ホームページをご覧ください。

平成30年度松楠会支援事業の募集

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおよそ30万円を上限とする。
- 2 提出書類 …………… (1) 企画書 (2) 予算見積書 (3) その他参考資料等
- 3 応募締め切り…………… 平成30年1月31日
- 4 提出先および問合せ先 …… 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス：syounan@ed.kagawa-u.ac.jp TEL：087-832-1414

なお、同一事業の採択は、4回までとします。選考結果については、2～3月中に通知します。対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会（香川大学教育学部同窓会）の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または報告書に添付して提出してください。

支部だより

高松支部 Takamatsu



平成28年に50回目となる総会を開催しました。前教育学部長山神眞一教授に「香川大学教育学部のこれから」と題して講演をいただき、改革構想とその具体について研修しました。また、パンフレット「松楠会高松支部総会50回のあゆみ」や「高松支部だより」(昨年の講演内容が中心)を配布し、歴代支部長や講演の足あとを懐かしく振り返る場となりました。

総会時には、教育課題や文化等に関する研修、豊かな人間性とのふれ合いを大事にしています。今年は、地区委員を中心に、支部事業の概要を説明しながら、参加の呼びかけをしています。また、総会当日と2月頃開催している若い会員中心の会は、3年目を迎えます。和やかな雰囲気の中、研究発表会の振り返り、職場での苦労や成功談、先輩の学生時代の思い出話等、内容は多様です。今後、世話人を決める等の工夫をし、活性化を図ろうとしています。

総会・懇親会、若い会員中心の会は魅力が増す可能性があります。多くの方の参加をお待ちしています。

後藤 文男(教育・昭和46年卒)

丸亀支部 Marugame



平成28年度の丸亀支部総会は、8月25日(木)10時30分より、中西眞理子副会長、片岡元子理事を来賓に迎え、丸亀市生涯学習センターで開催しました。

ご逝去された先輩への黙祷、米寿の会員に記念品の贈呈を行いました。議事は、27年度の事業報告、決算報告、監査報告、28年度の事業計画・予算案審議と、進行了しました。

総会のあとは、「家庭にあるもので、おもちゃをつくらう」のテーマで、「ミンミンゼミ」と「魔法の封筒」を作りました。「ミンミンゼミ」は、クラフトテープを塩化ビニルの筒に貼り、手芸用のリリヤーンを輪にして、マツヤニを塗った竹ひごに引っかけます。ぐるぐる回すと、「シャン、シャン、シャン」と音がします。パイオリンと同じ原理で、音が出るのです。クマゼミの鳴き声に聞こえるのですが、なぜか「ミンミンゼミ」とい

う名前がついています。

「魔法の封筒」は、封筒の窓に輪郭線だけの絵が見えています。この絵を封筒から引き出すと、あら不思議、色がつくのです。仕掛けは非常に単純なのですが、不思議な光景です。みんな童心に返った時間を過ごし、孫へのおみやげもできました。

懇親会も、楽しかったこと、苦労したことなど、思い出を語って過ごしました。来年の再会を約束した楽しい半日でした。

前田 伸雄(学芸・昭和40年卒)

坂出支部 Sakaide



松楠会坂出支部の平成29年度の会員は、現職142名、OB132名の計274名です。21のOB地区と22の学校地区による構成で、事務局を附属幼稚園に置いています。

平成28年度、附属幼稚園において6月5日に役員会、6月26日に坂出支部評議員会を行いました。そして、坂出支部総会は9月4日(日)に開催し、ご来賓として、松楠会本部より、松楠会副会長の大山正子様、学内理事の中島栄美子様のご臨席をいただきました。

総会後に坂出支部の大先輩である玉井一郎先生にご講話をいただきました。テーマは『家族の絆』、家族間のぬくもり、心への寄り添いとは、心理的な相互関係の上に成り立つことをわかりやすく、またユーモアあふれる川柳や詩をもちいてお話しくださしました。家族の温かみは、当たり前ではなく尊いかけがえのないものであることに改めて感じ入りました。現職の先生方のご参会も多く、東部小学校 田井校長先生より玉井先生の「表情は無言の言語」という言葉を受けてお礼の辞を述べられました。

また、今年度坂出支部に発足した「若年研修」について、西吉亮二先生よりご報告がありました。瀬居中学校教頭 谷本里都子先生を講師として、8月17日に「教育を語ろう会」をもち、10名の若手の先生方がご参加されました。日ごろの悩みを語り、交流を和やかにし、いい機会づくりになりました。

今後とも、支部会員の皆様や本部の皆様のご意見を賜り、充実した運営を図りたいと考えております。よろしくお願いたします。

桑原 育子(教育・平成4年卒・香川大学教育学部附属幼稚園)

大川支部 Okawa

平成28年度松楠会大川支部総会は、8月21日(日)クアパーク津田にて松楠会本部から小比賀俊彦会長をご来賓としてお招きし、会員33名の出席のもと盛大に開催



されました。

総会では、平成27年度の事業報告・会計報告、平成28年度の事業計画・予算案等について協議、役員改選を行い、懇親会へと続きました。

記念講演は教育学部准教授高木愛先生に「香川大学における教職支援の現状」のテーマで講演をお願いし、先生の大学における授業、教員採用試験における支援、教育実習における支援、教職実習に関するその他の支援等きめ細かい指導に感銘をうけました。

大川支部でも、会の活性化のために会員参加の研究グループ「動くおもちゃ作り・木工教室」(代表 多田照代先生)が活動されています。更に後に続くグループを期待しています。会員皆様のアイデアをお待ちしています。

西尾 英一(学芸・昭和35年卒)

小豆支部 ————— Syozu



平成28年度松楠会小豆支部総会は、8月21日(日)に土庄町にある小豆島グランドホテル水明で開催されました。15名の会員が出席し松楠会本部から西山徹副会長のご出席を賜りました。総会終了後、会員の樋本強先生が「昭和と平成を生きる」という演題で講演をして下さいました。“先生の少年時代は太平洋戦争の前で生活をするのが厳しい時代であった。香川師範学校で寮生活が始まり充実した学校生活を送れると思っていたがやがて戦争の足音とともに学徒動員で林飛行場や愛知県の半田市で働くという苦難の生活を送った。昭和24年から教師として教壇に立つことになった。教師を務めながら校外での活動として消防団、青年団、BSなどに関わっていた。長い教員生活の後半は県教委の出張所に9年勤め、また校長として学校運営に携わってきた。その後土庄町教育長を2期8年勤めた。この時、姉妹縁組をしているギリシャのミロス島を訪問し友好親善を深め、ヨーロッパ数か国を視察し帰国した。”今、世界各地でいろいろな場面で多様性が大事だと言われていると思いますが、先生は他の人より特に多様なそして柔軟な生き方をしてこられたと感じました。

講演会後の懇親会ではエンジェルロード等のいい景色が見える会場で食事をしながら、久しぶりに顔を合わせた会員同士の近況報告や思い出話に楽しい時間を過ごすことができました。

小豆支部の平成28年度の会員は現職48名、OB85名の133名です。今後とも現職会員との連携を深め、先輩の先生方や本部の皆様のご指導を賜りながら、会員の研修、懇親の場として充実した運営をしていきたいと考えています。

三木 吉昭(学芸・昭和39年卒)

木田支部 ————— Kita



平成28年度の木田支部の主な活動は、7月の役員会と8月の総会・懇親会並びに教育講演会の開催、そして10月の日帰りバス研修旅行です。8月25日の総会はトレストア白山で開催し、ご来賓として松楠会本部より小比賀俊彦会長様にご臨席いただき、ご挨拶やご助言をいただきました。総会や懇親会には、若年教員の参加も増えてきており、今後ますます積極的な参加を呼びかけていきたいと考えています。午後からは、三木町文化交流プラザで木田教育会との共催で教育講演会を開催しました。講師は、松楠会理事長の山神眞一先生にお願いし、「子どもの体力を考える」と題してのご講演をいただき、大変有意義なものとなりました。ユーモアあふれる楽しい語り口に引き込まれ、時間があっという間に過ぎました。10月15日には、「福山鞆の浦史跡めぐりと呉大和ミュージアム」の日帰り研修旅行に出かけました。晴天にも恵まれ、10名の会員が和気あいあいとゆったりとした気分で過ごすことができました。今後も松楠会が会員の親睦を深めつつも、教育課題等についてお互いに学ぶ機会になればと思っています。

山地 茂之(教育・昭和60年卒・三木町立平井小学校)

香川支部 ————— Kagawa

香川支部は、現職会員の参加を容易にするため、支部総会・研修会を毎年夏休み中に開催します。その効により、現職会員の参加が多くうれしい会となっています。

総会后、引き続き研修会とし、28年度は母校の宮崎英一先生による講話をいただきました。演題は「デジタルメディアの活用」

- デジタルメディアとは、機械による読み取り可能な記録形式であり、文字・絵画・動画等が数値化され、コンピュータ上で作成・閲覧・配信・修正・保存可能なものである。
- デジタル教科書の出現が予想されているが、その利点は、多くの情報の取得、更新の容易化、教科や学年を超えた活用、新たな学習スタイルの構築、児童生徒の多様な学習ニーズに対応でき、学びの充実を図ることができることである。

新しい教育への視点や考え方を示唆していただき、大変有意義な会となりました。

妹尾 長(学芸・昭和34年卒)

綾歌支部 Ayauta



綾歌支部は、平成の合併前の綾歌郡旧6町で引き続き組織され、平成28年度の支部会員数は、現職会員204名、OB会員177名の計381名です。

支部総会は、8月20日(土)、ホテル・サンルート瀬戸大橋で開催し本部から大山正子副会長様のご臨席をいただきました。

総会では、平成27年度行事・決算・監査報告、28年度行事・予算案の審議、平成27年度実施の若年会員活性化事業の報告(写真)が宇多津北小学校よりありました。

議事終了後、昨年実施して会員より好評を得た音楽ライブ「テルandマサ楽団」による演奏があり、楽しく心洗われるひと時を過ごしました。その後の歓迎懇親会でも会員相互の話の輪が広まり、また飛び入りで手品の披露もあり、なごやかな会となりました。現職会員から居心地がよく、松楠会のことがよく分かったです。との感想が寄せられました。9月17日には総会の報告を中心とした内容の「松楠会支部だより」を発行し全会員に配布することができました。

谷澤 俊紀(学芸・昭和40年卒)

仲善支部 Tyuzen



本支部の会員は、OB210名、現職164名計374名。活動として総会と新年祝宴会を開催し、交流を深めている。その際、ご来賓として松楠会、仲善教育会、小中学校長会よりお迎えしている。

【総会】7月30日(土)35名参加

総会に先立ち米寿記念品贈呈を行い、元気に米寿をお迎えになったことを共に喜びあっている。会員が楽しみにしている恒例の干支の竹細工作りに挑戦。香川孝典先生の指導のもと楽しい時間を過ごした。

【新年祝宴会】1月14日(土)33名参加

新年にふさわしく、田中仁先生の吟詠、多田紀男先生のヴァイオリン演奏を披露していただいた。今回、新たに地元善通寺市内にある第73番札所「出釈迦寺」のご住職岡田幸恵様より、ご講話を計画した。多くの会

員の皆様が参加していただけるよう、今後も内容を工夫したい。

懇親の席では、必ず「香川大学学歌」を歌い、学生時代に思いを馳せている。参加者の中には、「学歌」「学生歌」を知らない会員もいるのでいい機会である。これらの会が、先輩会員と交流を深める場となっているが、参加者が限られてきている。より多くの会員の参加をめざして、会の運営を工夫するとともに声をかけ合っていきたい。

武田 眞智子(教育・昭和51年卒)

大阪支部 Osaka



香友会大阪支部は、毎年懇親会を実施しております。

今年は、2月3日に、難波の「木曾路」で、開催いたしました。10名が参加いたしました。(写真撮影時、1名帰宅されたため、9名で写っております。)参加者は、残念ながら年々少しずつ減ってきており、寂しい限りです。また、高齢化も進んでおります。もう、現職の方は、いらっしゃらなく、退職者ばかりの集まりです。

でも、元気いっぱい、大いに食べ、飲み、話に花が咲きました。在学中に散策し、今も美しい景観を残し、見学者が絶えないという栗林公園、最近、孫と遊びに行ったというレオマワールド、うどんは、毎日のように食べたけど、今のように各地から、食べに来られるなんて、思いもしなかった。あの店、残っているやろか?等々、楽しい時間を過ごしました。

若い方の参加がなかなか進みませんので、香川大学教育学部出身で、大阪市に勤務されている方について、職種を問わず、広くお声かけをして、支部の輪を広げていきたいと考えております。

領木 知子(教育・昭和47年卒)

兵庫支部 Hyogo

兵庫支部紫雲会は、年1回の定期総会を開催し続けながら、ここ数年は若い会員を対象にした懇親会も実施しています。

28年度の総会は9名の参加者でしたが、和気藹々とした雰囲気の中、懇親を深めることができました。参加者一人一人が近況を話していく中で、香川大学時代の思い出話にも花が咲きました。また、香川大学からは山神先生にもご臨席を賜り、大学の最近の様子を含めた貴重なお話をいただきました。とても楽しくあっという間に時間が過ぎました。

また、若手懇親会(将来の夢を語る会)を平成29年1月8日に開催しました。参加者は10名と少なかったですが、



「桂あやめ」師匠の落語を聴くことができました。プロの落語家が目の前で演じている姿に、参加者は感動していました。そのあと、ともに食事をしながら、様々な話ことができました。この企画は、現役の若い先生方のアイデアで進めています。自由な発想で、兵庫支部独自の取り組みになっていると自負しています。



さらに今年、名簿の整理をしました。阪神・淡路大震災前後から、名簿が十分に整理されていませんでした。大学の同窓会名簿を基にして、29年度の総会案内を出しました。例年300名程度でしたが、今回は約470名に発送しました。現在、返信があり、名簿を整理できていると思っています。亡くなった方や、支部の活動をご存じでない方も多数いらっしゃいました。また、県外の方の扱いについて検討したいと考えています。

しかし、支部の活動としましては、役員会を計画しますが、役員の日程調整が年々困難になっています。現役の先生方は子どもの指導や学校での役割等で、忙しくしておられます。課題が多くなっています。

さて、29年度の総会は、6月18日(日)に例年通り神戸の三宮にあります「西村屋ダイニング」にて開催します。若手懇親会で評判が良かったので、再度「桂あやめ」師匠の落語を聴く会にしました。多数の方が参加していただけたらと、期待しています。

縦糸である先輩、後輩の世代間交流と、横糸である同年代の交流を目指して、人とのつながりを大切に今後も支部活動を計画したいと考えています。絆を大切に活動が続けたいと考えています。年1回の半日を大学の仲間と過ごすために、1歩を踏み出してほしいと願っています。

木岡 正雄(教育・昭和48年卒)

岡山支部 ————— Okayama

平成28年度岡山支部総会を、8月11日(木)に「ピュアリティーまきび」に於いて開催しました。参加くださった方は20名でした。例年どおり、総会に引き続いて懇親会を行い、一年ぶりの元気な顔を確認し合っている仲間です。理事長の山神眞一先生には、岡山の地にお出でいただき、私たちを励ましてくださったこと、心から感謝を申し上げます。

会員相互の研修として、赤磐市立高陽中学校長 平田俊治先生をお迎えし、演題「地域とのつながりを大切に」についてご講演をいただきました。生徒指導上

の困難な課題の解決に向けて学校支援本部事業を立ち上げ、コーディネーターを中心に、学習支援ボランティア・環境ボランティアの方々と先生方が協力して、生徒の自己有用感を高め、互いに支え合える生徒集団に育てておら



れる実践の報告でした。「凡事徹底」を合い言葉として継続的に行われている「心を磨くトイレ掃除」の活動を通して、生徒の自主性と学校や地域を大切にする心を育てておられました。お話をお聞きして、校長先生の卓越したリーダーシップと優れた分析力に強い感銘を受けました。

本年は、新しい計画として、秋に、操山登山ハイクを実施しました。より多くの会員の方々に参加いただき、岡山支部の活動が後輩に引き継がれていくように努めていきたいと思っています。

土井原 敏郎(教育・昭和45年卒)

徳島支部 ————— Tokushima



徳島支部は、昨年発足したばかりで、松楠会支部の中では、もっとも新しい支部です。

昨年度の活動としては、支部立ち上げに向けて、総会開催の準備会を2回ほど行いました。十分な準備はできませんでしたが、山神理事長、植田学内理事さんをお迎えし、7月30日に結成総会を徳島市内のホテルで開催することができました。15名の会員が参加し、総会に引き続き行われた懇親会では、楽しいひとときを過ごすことができました。

支部結成に向けて、ご尽力をいただきました理事長・学内理事さんをはじめ事務局の方々に、深く感謝申し上げます。

活発な活動とを思いながら、現実にはなかなか厳しい状況ですが、2年目の飛躍に向けて、現在、支部会員の増員策と充実した活動内容について検討中です。

熊野 敏彦(教育・昭和55年卒・徳島市新町小学校)

平成28年度松楠会役員

*は、今年度新しく交代された方と、以前の役職に復された方です。

役員

会長	小比賀俊彦					
副会長	大山 正子 中西真理子 西山 徹 梶野 雅義					
顧問	毛利 猛					
理事長	山神 真一					
学内理事	佐藤 明宏	藤田 尚史	坂井 聡	西田 智子	貞廣美津子	片岡 元子
	山本木ノ実	植田 和也	塩井 実香	中島栄美子	大浦みゆき	高橋 智香
	稗田 美嘉	佐藤 盛子	(但し、佐藤(盛)の学内理事期間は、人事交流の期間とする)			
附属理事	倉沢 均* (高松)		樽本 導和 (坂出)			

支部事務局

	郵便番号	住 所・勤務校	担当者
高 松 支 部	761-0113	高松市屋島西町2469 高松市立屋島西小学校	池田 茂樹*
丸 亀 支 部	763-0051	丸亀市今津町348 丸亀市立城坤小学校	北浦留理子
坂 出 支 部	762-0031	坂出市文京町1-9-4 香川大学教育学部附属幼稚園	桑原 育子*
大 川 支 部	769-2705	東かがわ市白鳥525 東かがわ市立白鳥小学校	白河原 力*
小 豆 支 部	761-4152	小豆郡土庄町黒岩729-1	三木 吉昭
木 田 支 部	761-0702	木田郡三木町平木710-1 三木町立平井小学校	山地 茂之
香 川 支 部	761-1611	高松市塩江町安原上231 高松市立塩江小学校	上田 哲也
綾 歌 支 部	769-0105	高松市国分寺町柏原1034	鷺辺 達子*
仲・善 支 部	764-0026	仲多度郡多度津町南鴨366-3	武田真智子
三・観 支 部	768-0060	観音寺市観音寺町甲2558-1 観音寺市立観音寺小学校	澤田 純三*
愛 知 支 部	470-1167	愛知県豊明市栄町西大根99-24	古田三千年
大 阪 支 部	567-0884	大阪府茨木市新庄町6-9	信垣 綾子
兵 庫 支 部	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多台4-7-20	木岡 正雄
岡 山 支 部	709-0221	岡山県備前市吉永町金谷647-2	横山 茂樹
徳 島 支 部	771-3201	徳島県名西郡神山町阿野字五反地187-1	大草 晴香

事務局報告

平成29年度評議員会(総会)の報告については、松楠会ホームページをご覧ください。

平成28年度 松楠会支援事業

- ひみつ見つけはおもしろい! 2016夏 (三観支部 中田シゲ子 他)
- 動くおもちゃ作り・木工教室 (大川支部 多田 照代 他松楠会員18名)
- 自然に親しみ 大地のつくりを楽しく観察しよう (三観支部 近井 重美 他)

平成28年度 学生支援事業

- 未来からの留学生 (平成28年10月16日 香川大学幸町キャンパス)
- 第10回わくわくコンサート (平成29年2月12日 サンポートホール高松)
- 教育学部国際交流支援事業

平成28年度 表彰者

- 川田 英之 『自己の「物語り」をつむぐ国語授業-主体的・共同的な言葉の学びをつくる-』 2万円
- 山神 真一 『役に立つ少年剣道指導法』 2万円
- 大西小百合 他 『アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校国語の授業プラン』 2万円
共著 川田 英之、藤崎 裕子 他
- 藤田 善秋 『もしよろしければ』 1万円

平成28年度 助成者

- 倉野 晴代 コロラド大学幼児教育センター視察・保育参加・研修 3万円



出会いと繋がりに感謝！



高松市立庵治小学校教頭 大西 えい子

平成22年度から平成25年度までの4年間、交流人事制度で教育学部に勤務し、大学生に授業を行いながら、共に学ぶことができるありがたい機会をいただきました。学生に授業を行うためには、教育法規や学習指導要領、最新の教育情報などを自分が勉強しなければなりません。しかし、教員をめざして学ぶ学生たちの真面目さや素直さ、前向きに取り組む姿勢に感心し、それに応えられるような授業にしなければと自然に気合いが入り、努力を重ねることができました。今後同じ職場で働くかも知れない学生たちにかかわれることは、私にとって大きな喜びでした。

私が担当していた授業の中に「生活科授業研究」がありました。どの授業も学校現場との繋がりを意識して行っていましたが、この授業では近くの小学校に協力していただき、校外学習に出かける時に引率の補助をしたり、生活科の授業参観をしたりしました。また、平成23年度からは、木々の豊かな教育学部のキャンパスに小学1年生を招き、大学生が案内しながら「秋みつけ」をしました。その時の小学生との対話から課題を見つけ、子どもたちの気づきや学びを深めるためには・・・と意見を出し合い、盛り上がったことが昨日のこのように思えます。昨年、その小学校で1年生の学校図書館の研究授業があり、参観する機会がありました。香大のキャンパスで秋みつけをしてきた子どもたちが、ドングリごまの作り方を一生懸命調べていました。私は、今も続く「生活科授業研究」で大学生とともに学んだ1年生に出会うことができ、感慨深いものがありました。

平成23年12月から約2年間は、香川県健康福祉部から「がん教育」の教材づくりの委託を受け、西田智子教授とともにかわらせていただきました。1からのスタートでしたが、プログラム検討会会長であった当時の日赤の副院長吉澤潔先生や、学校医である十枝めぐみ先生、がん教育の先駆けである国立がん研究センターの片野田先生、文科省の「がん教育の在り方に関する検討会」のメンバーでもある東大附属病院の中川先生などのご指導やご協力を得て、健康福祉部担当者の方の熱いサポートのおかげで、小3・小6・中3・高2の教材が出来上がりました。がんに関する正しい知識をもち、主体的にがん予防に取り組む姿勢を育てることを目的に作成された教材と手引きは、平成26年に香川県下の学校に配布されました。私は、香川大学でこんな貴重な経験ができたこと、また、教頭になってから養護教諭とともに「がん教育」の授業を毎年行えていることをありがたく思いました。



生活科授業研究

今、現場で多くの卒業生に出会い、日々奮闘している姿を見て頼もしく思います。若い先生方が悩んだり迷ったりしている時には、精一杯サポートしています。私は、香川大学でのたくさんの出会いとたくさんの繋がりに感謝しながら、それがエネルギーとなり、前に進めていると感じています。

表紙の
答え

- ①教育学部玄関
- ②噴水
- ③図書館
- ④415講義室(旧L10講義室)
- ⑤広場
- ⑥オリーブスクエア
- ⑦415講義室前ロビー
- ⑧博物館(理科棟北1階)
- ⑨ベーカリーカフェ空海ソラミ(生協2階)

(写真協力 附属教職支援開発センター准教授 松下幸司)

編集後記 ■ ■ ■

■ 原稿執筆にご協力をいただきました皆様のおかげで会報を発行できますことを心から感謝申し上げます。今号は表紙のスタイルを変えてみました。会報を手にとられた方々が、それぞれの思いで母校の記憶を辿られたのではないのでしょうか。また今号では、松楠会創立130周年記念誌に掲載する思い出の写真を募集しています。今後も会報や記念誌をとおして、香川大学教育学部のこれまでとこれからを皆様と共有しながら、同窓会の絆を深めていきたいと思っています。

松楠会ホームページ

松楠会

検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>



松楠会報

第54号

発行日 平成29年7月5日

発行人 小比賀俊彦

山神 眞一

編集 中島栄美子

山本木ノ実

植田 和也

香川大学教育学部同窓会 松楠会